

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



55 Bar in 1993

《 55 Bar 》

今回はニューヨークでお世話になった老舗バーの話。

そのバーはウエスト・ヴィレッジのクリストファー・ストリートにある「55 Bar」という店で、1919年に開店した老舗のライブ・バー。ジャズ・バーとして紹介される場合もあるようだが、自分が通っていた当時から現在もジャズだけでなく、ブルースやファンク等のライブが連夜行われていて、ライブ・バーという方が正しいかもしれない。

自分がニューヨークで暮らし始めた当時、ほとんど毎週末、特に土曜日の夜、ウェイターの仕事を終えた後に直行し、深夜12時頃から2、3時頃まで入り浸っていた。当時土曜日の夜はジャズ・ギタリストの HARU さんのトリオが演奏していることが多く、現在日本で活躍しているベーシストの井上陽介さんや加藤真一さん、ドラマーの高橋幹夫さん

がメンバーだった。また、今は亡きハイラム・ブロック、週末や月曜日の夜にはマイク・スターンや奥さんのレニ・スターンが演奏することも多く、月曜日の夜に訪れることも結構あった。店の入り口に掛けられたボードにその日の出演アーティストの名前が白いチョークで記されていたのも懐かしい光景だ。

店内は決して広くはなく、通りから階段を数段下って入口の扉を開けると右手にバーのカウンターがあった。バーの奥にはポップコーン・マシンがあり、奥のトイレ脇にはピンボールが一台置かれていて、確か50セントくらいで遊ぶこともできた。バーのカウンター以外のスペースには年季の入った木製のテーブルとイスがいくつか置かれていて、入口を入れて正面がステージになっていた。ステージと言っても床との段差はなく、ステージの背後にはこれまた年季の入ったジューク・ボックスが一台置かれていて、その前でアンプや機材を並べて演奏が行なわれていた。前の方に座ればミュージシャンの演奏が目の前で聴くことができ、おしゃれなバーとは言えなかったが、古き良きアメリカの雰囲気や空間が満ちているような空間だった。店の周辺もかなりにぎやかで、深夜過ぎても通りには人が溢れていた。

ミュージック・チャージ等なかった記憶があるが、とにかく HARU さんのトリオやマイク・スターンの演奏が目の前で聴けることが凄いなと思ったし、数あるニューヨークのジャズ・バーやジャズ・クラブの中でも自分にとっては、金銭的にも一番気軽に入ることができる店だった。この「55 Bar」では、その昔ジャコ・パストリアスも頻繁に出入りしていて、HARU さん達と毎晩のようにジャム・セッションを行っていたそうだ。また、ジャコがウッドベースを弾くこともあったという。その頃の音源が残されていたら最高だが、「55 Bar」でジャコが演奏していた姿を想像するだけでも痺れる。

店の扉を開けた瞬間に響き渡るギター、ベース、ドラムの音は、年季の入った「55 Bar」の店内に反響して独特のサウンドを醸し出していた。店内の光景と共に今思い出しても懐かしい限りだが、店を出ると空が白みがかっていたなんてこともあり、楽しかったひと時と共にニューヨークのジャズ・シーンの奥深さを体感したのもこの店だった。

当時バーに入っていたのはブライアンという若いアメリカ人で、とてもナイスガイだった。もう一人、バーの隅っこで時々編み物をしながら接客をしていた黒人の女性もいたが、名前は忘れてしまった。また、深夜過ぎになるとふらっと店に現れるマイクというカメラマンの老人がいて、いつも人懐っこそうな笑みを浮かべていた。ブライアンは自分が帰国した後暫くして店を辞めたそうで、編み物をしていた黒人の女性もマイクの姿もその後見かけなくなったそうだ…。